



(部分)

『平城宮木簡三』に所収の三〇五八号木簡で、興味深い文字が判読されたので紹介する。某郡の贊荷札で、国郡名は読めていなかつた。保存処理・赤外線テレビカメラの活用により、釈読が進んだ。

国名の一文字目は「こ」と偏の文字で、旁には四本ほどの横画がある。郡名は「石取」か「名取」。「同四」四〇二四号木簡の「陸奥」字などと比較し「陸奥國名取郡」と確認した。また「御贊」の上は「布」と判読され、郷名でなく品名であろう。昆布と推測されるがその種類は不明。新釈文は以下の通り。

「陸奥國名取郡□□布御贊老籠□□ 天平元年＝
＝十一月十五日」

3.9×2.5×6 031

(馬場
基)

新たに釈読された陸奥国荷札木簡